# 第５学年３組　道徳学習指導案

指導者　教諭　出　頭　秀　彦

１　主題名　礼儀　２－(1)

２　資料名　光男の礼儀（自作資料）

３　主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目２－(1)は「時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接する。」である。「小学校学習指導要領解説　道徳編　平成20年８月　文部科学省」では，小学校高学年の児童には，「礼儀作法について正しく理解し，時と場をわきまえた適切な言動が求められる。」とある。礼儀は，人間関係や社会生活を営む上で基本となるものであり，そこには相手を尊重する気持ちがこめられていなければならない。しかし，時に，人は，恥ずかしさやわだかまりなどの感情に左右され，心のこもったあいさつなどの礼儀正しい振る舞いができない事がある。特に，この段階の児童は，心身の成長に伴って，家庭でも学校でも大人とほぼ同様の礼儀正しさが求められるようになる。したがって，この時期に，相手を尊重する気持ちの表れこそが礼儀であることや，真心のこもったあいさつなどの礼儀正しい振る舞いの大切さについて指導することには大きな意義がある。

(2) 児童の実態について

実態調査では「心情」「実践意欲」について，大部分の児童が「とてもそう思う。」又は「どちらかと言えばそう思う。」と回答し，「判断」についても大部分の児童が「自分からあいさつする。」と回答している。このことから，ほとんどの児童はあいさつを大切なものと考え，実践していると判断できる。しかし，「あいさつが返ってこないと嫌だ。」あるいは「めんどくさい。」などの理由であいさつを十分にしない，あるいはしようとしない児童も見られる。したがって，「大きな声で」や「目を合わせて」あいさつすることを心がけているという児童も，それが真に，相手を尊重する心から発せられたものであるかどうかは疑問である。

☆あいさつに関する実態調査〈平成23年10月14日実施；第５学年３組31人〉

| | | | |
|---|---|---|---|
| 質問 | ＜心情＞あいさつを，したりされたりすると気持ちがよい。 | | |
| 回答 | とてもそう思う。 | 14人 | 心が明るくなるから，等。 |
| | どちらかといえばそう思う。 | 14人 | あいさつしたら返してくれるから，等。 |
| | あまりそう思わない。 | ２人 | あいさつしてもされてもあまり気持ちいいと思わないから。いつもしていることだから。 |
| | 全くそう思わない。 | １人 | あいさつされても何もよいことがないから。 |
| 質問 | ＜判断力＞学校の廊下をあなたが一人で歩いていると，向こうから学校のお客さんらしい大人の人が歩いてきます。その時のあなたの行動にもっとも近いのは次のうちどれですか？ | | |
| 回答 | 自分からあいさつする。 | 24人 | 相手の気持ちがよくなるから，あいさつをして返されると気持ちいいから，等。 |
| | 相手があいさつするかどうか様子を見る。 | ６人 | こっちからあいさつしても返ってこなかったら嫌だから，等。 |
| | 誰かわからないから，あいさつしない。 | ０人 | |
| | 気付かないふりをしてしまう。 | １人 | 知らない人だから。 |
| 質問 | ＜実践意欲＞いつもあいさつをしようと心掛けているか。 | | |
| 回答 | とてもそう思う。 | ９人 | 自分でも気持ちがいいから，等。 |
| | どちらかと言えばそう思う。 | 15人 | あいさつすると気持ちいいから，相手にしてもらうとうれしいから，元気がないときもあるから，等。 |
| | あまりそう思わない。 | ７人 | あいさつしても返してもらえないことがあるから，ときどき忘れてしまうから，等。 |
| | 全くそう思わない。 | ０人 | |
| 質問 | ＜行為＞いつもあいさつすることができる。 | | |
| 回答 | いつもできる。 | ４人 | 習慣がついているから，あいさつをすると気持ちがいいから，等。 |
| | だいたいはできる。 | 23人 | はずかしい時があるから，あいさつをされたらする感じだから，等。 |
| | できないことが多い。 | ３人 | 忘れたり無視したりするから。めんどくさい時があるから。体がかたまってしまうから。 |
| | ほとんどできない。 | １人 | 遊びに夢中で。 |
| 質問 | あなたが人にあいさつする時に，何か心がけていることはありますか？ | | |
| 回答 | 相手が気持ちいいなと思ってくれるように，笑顔であいさつする，相手の目を見てあいさつする，明るく元気よく，大きな声で言う，等。 | | |

(3) 資料について

本資料は，授業者の自作資料である。主人公の光男が，家でお客様に失礼な振る舞いをして父にしかられてしまう。腹を立てるが，学校で友達の真心のこもった振る舞いにふれて礼儀の大切さに気付く。この資料を通じて，礼儀の根底には，相手を尊重する気持ちがなければならないことに気付かせたい。なお，本校においては「進んであいさつのできる児童」をめざしてあいさつ運動に力を入れていることを受け，礼儀の中でもあいさつに注目した資料構成・授業構成とした。ゲストティーチャーとして「元気のよいあいさつ」を推奨している学校長を招いた終末の工夫及び数日後に本学級が当番となっている「朝あいさつ運動」や「さわやかあいさつカード」における実践を通して，ねらいとする価値の自覚を一層深めたい。

4　本時の指導

(1) ねらい

主人公の心情を理解することを通して，相手の立場に立って，礼儀正しく真心をもって接しようとする実践意欲を養う。

(2) 準備

読み物資料，ワークシート，挿絵，発問カード（掲示用）

(3) 展開

| 流れ | 学習活動と発問 | 予想される児童の反応 | 教　師　の　支　援 |
|---|---|---|---|
| 関心をもつ | 1　自分たちの礼儀について考える。<br>○礼儀正しくするってどういうことでしょう。 | ・ていねいな言葉遣い。<br>・ていねいなあいさつ。<br>・ていねいな行動。 | ・ねらいとする価値にふれ関心をもたせる。 |
| 深める | 2　読み物資料「光男の礼儀」を読み話し合う。<br>○光男は，どうしてはきはきとしたあいさつやお礼の言葉を言えるようになっていたのでしょう。<br>○布団を頭からかぶった光男はどんなことを考えていたでしょう。<br>◎光男の頭にはどんな思いがひらめいたのでしょう。<br><br>○「形だけの礼儀」と「真心がこもった礼儀」の違いを実感するために，光男がお客さんを見送る場面の役割演技をしてみましょう。 | ・コーチに言われたから。<br>・怒られるから。<br>・まわりの人に，ほめられたから。<br>・うるさいな。<br>・せっかくやったのに。<br>・どうすればいいんだよ。<br>・形だけやっても，心がこもっていないとダメだから，これからはしっかりやらないと。<br>・形だけやっても，心がこもっていないとダメなんだ。<br>・形だけやってもダメだ。<br>・サッカーと同じじゃだめなんだ。<br><br>（お客さん役の児童）<br>・形だけ見送られると嫌な気持ちがした。反対に，ていねいに見送られると，よい気持ちがした。<br>（光男役の児童）<br>・心をこめたほうが，やっている方も気持ちよかった。 | ・「言われる」から身についたものであり，真の礼儀正しさとは違うことを押さえさせる。<br>・光男のいらだちや疑問を理解できるようにする。<br>・広の真心がこもった謝罪の言葉を通して，光男が真の礼儀とはどんなものかに気付いたことを押さえさせる。<br>☆期待する姿が見られなかった場合の指導<br>個別に言葉かけをして光男が何に気付いたかを考えさせる。<br>・２人組を２ペア役割演技させる。１組目は，価値の自覚が深まっている児童，２組目は，価値の自覚があまり深まっていない児童を意図的に指名して，皆の前で役割演技させることで，演じている児童だけでなく見ている児童にも，中心発問における話合いで出たことが実感できるようにする。 |
| 見つめる | 3　授業を振り返り，感じたことを話し合う。<br>○みなさんは今までに，あいさつっていいなと思った経験がありますか？あれば，その時に感じたことも思い出して発表してください。 | ・知らない人にあいさつしたら気持ちよかった。これからも，自分は気持ちのよいあいさつをしたい。<br>・自分は礼儀正しいあいさつが，いつもできるとはいえない。<br>・ていねいなあいさつは気持ちがよい。 | ・落ち着いた雰囲気で，振り返りを行えるようにする。<br>㊙相手の立場に立って，礼儀正しく真心をもって接しようとする意欲が育まれたか。（ワークシート，発表，観察） |
| つなぐ | 4　ゲストティーチャーの話を聞く。 | ・全員静かに，ゲストティーチャーである学校長の話を聞く。 | ・学校長を招き，真心のこもった礼儀の大切さや本校児童に求めるあいさつについての話を聞く。<br>・「さわやかあいさつカード」や「あいさつ運動」での実践を意識させる。 |

# 光男の礼儀

光男は、地域のサッカークラブに所属している。クラブに入ってから約一年半、プレーも上達して、サッカーが面白くなってきた。

このクラブは、礼儀にとても厳しいことで有名だ。コーチが「スポーツは礼に始まって礼に終わる。」という考えを大切にしているため、あいさつや礼儀がきちんと出来なければ厳しい注意をうける。でも、大きな声で「お願いします！」「ありがとうございました！」などとあいさつをすると、とっても気持ちが引き締まる。いつしか光男は、サッカーを通してはきはきとしたあいさつやお礼の言葉を言えるようになっていた。そして、近所の大人たちから「あいさつがきちんとできる、礼儀正しい子だね。」とほめられることが多くなった。

ある日の夕方、光男が楽しみにしていたテレビ番組を見ていると、ちょうどいいところで、母が光男のことを呼びに来た。

「光男、お客さんがお帰りだから、ちょっとごあいさつしなさい。」

「今、いいところなんだけど・・・。」

「もう、五年生なんだから、あいさつくらい出来なくちゃだめよ。ちょっとだから、来なさい。」

お客さん、といっても光男が知らない人だ。『まあ、とにかく、行ってくれば

いいか・・・。』と、渋々お客さんの前に出た光男は、早口であいさつをし、すぐにテレビの前にもどって、テレビ番組の続きを見ていた。

　すると、部屋のドアがガチャッと開き、父が光男の部屋に入ってきた。

「光男！何だ、さっきの態度は！」

　父の怒鳴り声に、光男は一瞬、面食らった。

「なんだよ、父さん、ちゃんとあいさつしたじゃないか。」

「なにが、『ちゃんとあいさつした』だ。テレビが見たいのか、なんだか知らないが、あいさつや礼儀ってのはな、形だけやればいいってもんじゃないんだよ。お前は、クラブで何を習ってきたんだ。サッカーの時しかちゃんと出来ないあいさつや礼儀だったら、覚えたって意味がないだろう！」

「うるさいな！こっちだって一生懸命やってるのに！」

　頭ごなしに言われて腹が立った光男は、父に背をむけて布団を頭からかぶった。

　父は光男の背中を見ている気配がしたが、しばらくして部屋から出ていった様子だった。

「なんだよ、テレビ見てた所を無理矢理呼んだくせに！『形だけやればいいってものじゃない。』って、あいさつは『こんにちは』『さようなら』って言って頭をさげればいいんじゃんか。形以外になにがあるっていうんだよ。」

考えれば考えるほど腹が立つ・・・光男は、その晩なかなか眠れなかった。
次の日の昼休み、友達と遊ぶ約束をしていた光男は、広と健一に声をかけた。
「よし、グランドにいこうぜ！」
すると、広と健一は急用が出来たので行けなくなったという。
「ごめんな光男、今日の昼休みに、俺たちの班は総合のまとめをやることになったんだよ。だから、今日は遊べないんだ。」
「えー、なんだよ今さら。さっき、雄太たちのドッジボールを断っちゃったし、みんなグランドに行っちゃったから、オレ一人になっちゃうじゃないかよ。」
「悪い！うちの班、どうしても今日しか全員集まれないんだよ。あさってには完成しないといけないからさあ。」
「もういいよ、一人で本でも読んでるから！総合でも何でも、行っちゃえよ！」
広と健一は、すまなそうにしながらも、図書館へ移動していった。
ひとりぼっちになった光男は、机に肘をつきながら、みんなが楽しそうにドッジボールや鬼ごっこをしている様子を見つめていた。
もうすぐ昼休みが終わる、という時、ふと気付くと光男の席の横にさっきケンカ別れをした広が立っていた。
「光男、ごめんな、さっきは。」
「・・・別に。もう終わったのかよ、総合は。」

「うん、だいたい出来たから、最後の仕上げを健一たちがやってる。もう、そんなに人数はいらないだろうと思って、急いで帰ってきたんだ。」

「・・・そう。」

「約束していたのに、ほんとにごめんな。」

光男は、広の表情から、いつもとはちょっと違う空気を感じた。

「明日は一緒に遊ぼうぜ。」

なんだろうこの感じは・・・。たかが遊ぶ約束だけの事なのに、広はどうしてこんなに真剣なんだろう。・・・次の瞬間、昨日の父の言葉が頭に浮かんだ。

『あいさつや礼儀ってのはな――――。』

光男の心にある思いがひらめいた。

「もういいよ広。おれの方こそ、わがまま言って悪かったよ。」

二人の表情に、笑顔が戻った。

その時、昼休みの終わりをつげるチャイムの音が、光男の胸に心地よく響いた。